

北陸石仏の会々報

富山県にある福井石工の狛犬

酒井 靖春

滑川市神明町櫛原神社にある狛犬は、入り口の鳥居前にあり、向かって右側の狛犬の下の台石後側に「文化二乙丑天六月吉日」「石工越前福井石坂町井上市右エ門孝紀」と刻まれている。石材は福井市足羽山から採出する緑色凝灰岩の笏谷石で、計測すると法量は高さ一メートル五センチ・横八五センチ・幅四五センチと大型で、彫りが素晴らしい。

この神社は、石仏研究の先輩である酒井省三氏の案内で訪れた、芭蕉の句碑や石造物を紹介されたことがきっかけで石仏研究に目覚め、多くの石造物を巡りながら写真を撮り歩いているが、江戸時代の笏谷石製で福井石工銘のある貴重な狛犬である。

神社入り口に向かって左側の狛犬



第41号

平成24年9月1日発行

編集と発行

北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 北村市朗

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

- ・富山県にある福井石工の狛犬
- ・越前の珍しい石仏
- ・砺波地方の戦没碑について
- ・河濯様
- ・岩峯寺の普賢菩薩
- ・例会報告 福井市の石仏めぐり
- ・第45回例会のご案内



神社入り口に向かって右側の狛犬

越前の珍しい石仏(役行者・蔵王権現)

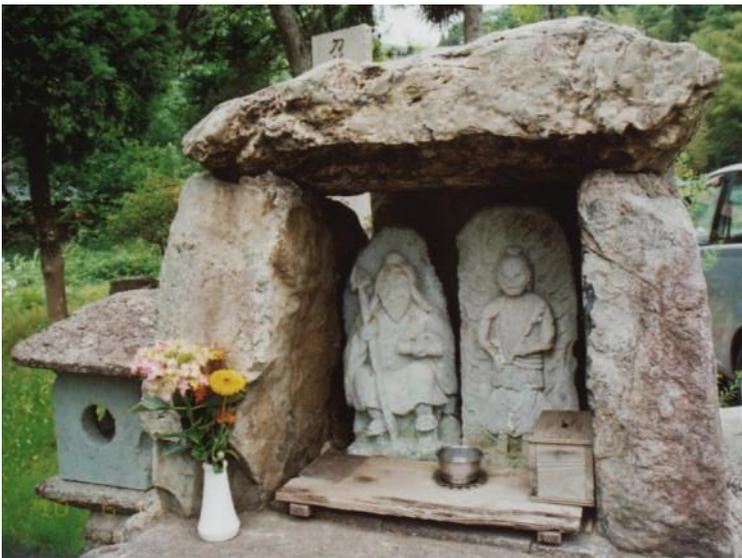
北村市朗

平成二十二年六月福井県文化財保護指導員の山本昭治氏の案内で、敦賀市の刀根区に行った。割石数点を組み合わせさせて龕を組み、その中に石仏二体を安置している。向って右側に不動明王像と、左側に役行者を配置している。山本氏の説明では凝灰岩製で笏谷石の可能性が強いとのこと、不動明王は自然石型に陽刻しているが、役行者は近世墓標型式分類図(立教大学)のF型に陽刻したものとあった。

同地区にこの他に前述と同様の組み合わせの石仏があり、他の一体と合わせて、三組の同一組み合わせの不動明王と役行者があると知った。刀根は国の重要文化財地区に指定されている。柴田勝家築城の玄蕃尾城の登り口であり、石仏は信者の物との事。

南越前町の今庄の天台真盛宗の清心寺にも役行者像があり笏谷石製で、像高二十六センチメートルで光背に陽刻されている。

越前市を流れる日野川の最上部の一つに、宇津尾集落があり、中央部の高台に石仏群がある。蔵王権現を中心にして、仁王像一対と、丸彫地藏二体、小型板碑二基と、五輪塔数点を安置している。蔵王権現像を見る事が初めてで、全く異様で驚いた。笏谷石製の台付舟型光背に陽刻してあり、山本氏が「天下泰平丁丑宝曆七天 五穀成就 六月吉日」の印刻銘を読みとられた。像高五十一センチメートル、光背上部割損。仁王像は丸彫で像高四十九センチメートルである。この所にある地藏堂は大きな案内板があり、一千百年余のある木像で五十年に一回の開帳とあり、集落の住民の信仰の中心となっている。この蔵王権現の安置も何らかの関係がある感をして山を下りた。



左：刀根の役行者と不動明王

下：今庄清心寺の役行者

左下：宇津尾の石仏群(中央が蔵王権現)



砺波地方の戦没碑について —特に日露戦争について—

尾田 武雄

日清戦争は明治二十七年七月から二十八年三月にかけて、主に朝鮮半島をめぐる大日本帝国と大清国の戦争である。砺波地方では日清戦争に関わる石碑は、道端や神社の境内に多く見受けられ、「征露」や「忠勲」など勇ましい碑文が目に入る。また「南無阿弥陀仏」と彫られた戦没碑も多い。

明治三十七年に日露戦争が始まり、当時ロシア帝国は、世界一の陸軍を保有する国であったからとされていたが、日本の満州派遣軍は、鴨緑江から遼陽・沙河の会戦に勇戦奮闘してよく撃破し、奉天まで追撃した。翌年三月十日、奉天会戦で空前の勝利をおさめることになる。郷土部隊の金沢を本拠とする第九師団は乃木希典中将を司令官とした三軍に属し、旅順要塞の攻撃軍に加わった。旅順港を囲む堡塁は堅固無双、難攻不落であった。旅順は四周を山で囲まれ、南方の一部に狭い港口が開いているだけであった。それらの四周の山々はすべて堅固な要塞の連続であった。その要塞築造には二十万樽のセメントを使用し、ペトンで固め、その上強圧電流を通じた鉄条網を張り巡らしてあった。さらに日本軍の持たない機関銃を多数備え、肉薄攻撃してくる日本軍を、高所より撃ち倒したのであった。三軍は八月十九日から二十一日まで、攻城砲・野砲の全力をあげて攻撃し、その効果を信じて二十一日第一回総攻撃を実施した。しかし死闘四日間にわたり、一万五千人の死傷者を出したにもかかわらず、目的は達せられなかった。その後第二回、第三回の総攻撃が行われ、百五十五日にわたる旅順攻囲線において、日本軍の死傷者は五万九千人の多数にのぼった。『富山県史通史編Ⅴ近代上』富山県における戦死者表のように二千四百一人である。

日露戦争の全国各師団別の戦死者は、第九師団が最も多く、旅順攻囲戦・奉天大戦の犠牲者が多かった。特に盤龍山東旧砲台の攻撃の際に、第三十五連隊の被害は戦死者数三百七十二人、戦傷者数千四十一人と戦闘地の中でも

多い。これは肉弾総攻撃の失敗の連続であった。真宗門徒の多いこの地方から多くの若い兵士たちは「戦争をするものも仏に對する報恩行」と、念仏を唱えて肉弾戦を展開し、念仏部隊の異名で呼ばれたといわれている。多大な犠牲を出したのであった。

さて旧福野町の南砺市上野の交差点に「兵隊地蔵」といわれる石像がある。高さ一六五センチの、金屋石の割石に正面に大きく軍人の立像が浮き彫りされている。軍人の像そのものはやや剥落し、朽ちるのを防ぐために針金で補強されている。碑文は正面右に「陸軍歩兵一等卒森田太八君碑」とあり、正面左には「明治卅九丙午三月建之」左側面に「森川栄吉作」、背面には「故陸軍歩兵一等卒森田太八君死清國奉天省官依明治三十七、八年役功勲八等白色桐葉章特賜軍事債券五百円遺族今茲丙午父勒石其不朽属文於予焉君同郷情誼不可辞君越中東砺波郡元上野邸人家□□□□父太丞母前川氏兄弟五人君其長子年十二年□明治三十七年十一月應第九師団□□□□入營歩兵第三十五連隊同年十二月□征露□命出帆宇品港上陸清國柳樹屯翌年□□□□奉天省附近会戦為勇奮戦關遂名譽戦死□□□□招魂詞一日也」の語句が読み取れる。

悲しい戦死には変わりはない。農村を犠牲にして戦われた戦争の悲劇の遺産である。この兵隊地蔵には「栄光」と「悲劇」が同時に内蔵されており、その根底には「反戦」の深い意思表示もうかがわれる。



兵隊地蔵 南砺市上野

河濯様

滝本 やすし

河濯信仰は、北海道の道南地方、石川県加賀地方、福井県越前、若狭、滋賀県湖北、湖西、京都府丹後地方、兵庫県但馬、丹波地方にみられる。しかし各地方それぞれに信仰形態などが異なっている。北海道の道南地方だけが他の地域から遠く離れているのは、北近畿や若狭などからの開拓民が持ち込んだものである。また、これらの地域以外では河濯信仰は皆無と言っても良いほどである。富山県富山市に「かわうそ大明神」がみられるが、その信仰形態から、加賀地方の河濯信仰が持ち込まれたものではないかと思われる。

河濯は川濯、河裾、川裾、川下などとも表記される場合があり、その読みは「カワソ」が一般的であるが、「カワス」「カワスソ」「カワウソ」「カワシモ」などと様々である。河濯様は、河濯神社として祭神が祀られているのが一般的である。ところが加賀地方の寺院では河濯明神、越前地方の寺院では河濯権現として祀られている場合が多く、この地域特有の信仰形態と言えよう。石造物としての河濯様の作例は少なく、三例を確認するのみである。

河濯神社の祭神は瀬織津姫が多くみられる。特に加賀地方や越前地方では



白山市三宮町 白山比咩神社境外社
河濯大権現(石造瀬織津姫立像)元文3年

白山信仰における瀬織津姫との関連が強く、瀬織津姫⇨河濯様の公式が成りたつほどである。瀬織津姫

は大祓の詞に登場する祓神で、罪や穢れを川に流すとされる。大祓式は水無月晦日(六月三十日)の夕方に行われ、宮司によって大祓の詞が述べられる。大祓式⇨水無月祭り⇨河濯祭りの例が多くみられる。水無月祭りは旧暦で行われるところも多く、七月の終りが祭礼日となっていることがある。

瀬織津姫が祀られている神社は川の上流や滝のそばに多く、本殿に合祀さ

れているものや境内社を含めると全国に数百社みられる。富山県にも十数社、能登地方にも二社みられるのだが、いずれも河濯信仰との関連が確認されない。富山県などでは瀬織津姫⇨弁財天、瀬織津姫⇨水神、瀬織津姫⇨不動明王とされている例がみられ、瀬織津姫の名前が抹消されている場合が多いようである。河濯様も弁財天・水神・不動明王も水の神様であることには違いないのだが…。

水無月晦日の夕方に行われる大祓式が、河濯信仰発祥の源流と考えられる。大祓の詞では、早川の瀬に坐す瀬織津姫が人々の罪や穢れを川へ流し、この罪や穢れは、海の潮の流れが集まるところにいる速開都比咩という女神が口



あわら市堀江十楽 神明神社境内社 河濯神社
石造座像(尊名不明)、石祠(石造聖観音立像を安置)宝永3年

を開けて呑み込み、さらに息吹の出入口にいる息吹戸主という神がそれを地底の根の国(黄泉の国)へと吹き払い、最後に速佐須良比咩という女神が持ちさすらって消失させるといふ。すなわち、瀬織津姫(早川)↓速開都比咩(河口)↓息吹戸主(海底)↓速佐須良比咩(地底)の順に、罪や穢れが運ばれ消されて行くのである。したがって川辺で罪や穢れを瀬織津姫にあずければ後の三神が順番に処理してくれることになるので、人々は最も身近な瀬織津姫を河濯の神として祀ったのである。

加賀地方の日蓮宗寺院にみられる河濯明神は女性の神像であり、宝珠を持つ手が一般的にみられる瀬織津姫と逆であるが、それ以外はほぼ同じ像容である。これは神道の瀬織津姫をモデルとして、仏式にアレンジしたものでないかと考えられる。ところが越前地方の寺院では、大日如来等の仏尊を河濯権現とされたいる例が多くみられる。

河濯様は下の病・婦人病治癒の御利益があるとされている。加賀地方と越前地方では河濯様は温泉街や遊郭の近くに多く、湯女や遊女たちからの信仰が厚かったと伝えられている。また奥越の寺院では、河濯権現は子授けや安産の御利益があるとされ、子供



小松市東町 妙円寺
木造河濯明神立像



坂井市八幡町 河濯神社
御神体の木造女神立像[長侶達氏提供]

を授かった方々からの人形などが多数奉納されている。

加賀地方と越前地方の福井市以北では河濯様の祭礼が行われていなかったり、祭礼日に少人数の女性達だけでお参りをするのが一般的である。ところが越前地方でも南部の越前市あたりでは一般的な夏祭りのようである。若狭地方では河濯祭りが、丹後地方と但馬・丹波地方では川裾祭りが行われているのだが、こちらも一般的な夏祭りの感がする。

富山県や石川県の各地では「カワソ」「カワス」「カブソ」にまつわる伝説が多い。これはカワウソが人々にいたずらをするというもので、河川の近くなどでこのような言い伝えが残されているところが多い。中には妖怪の姿であったり、子供や女性に化けて悪さをするという話もある。

金沢市では初夏の時期に子供たちが胡瓜に「かわそ大明神」と書いて川に流す風習があった。これは川遊びの時にカワウソに足を引かれて水難事故に遭わないようにと祈願したものである。この風習はすでに途絶えてしまったようであるが、近年まで幼稚園や小学校のプール開きの時などに行われていた。これなどはカワウソ伝説と河濯信仰とのつながりであろうか。



加賀市山中温泉薬師町 医王寺
河濯明神(石造地藏座像)

岩峯寺の普賢菩薩

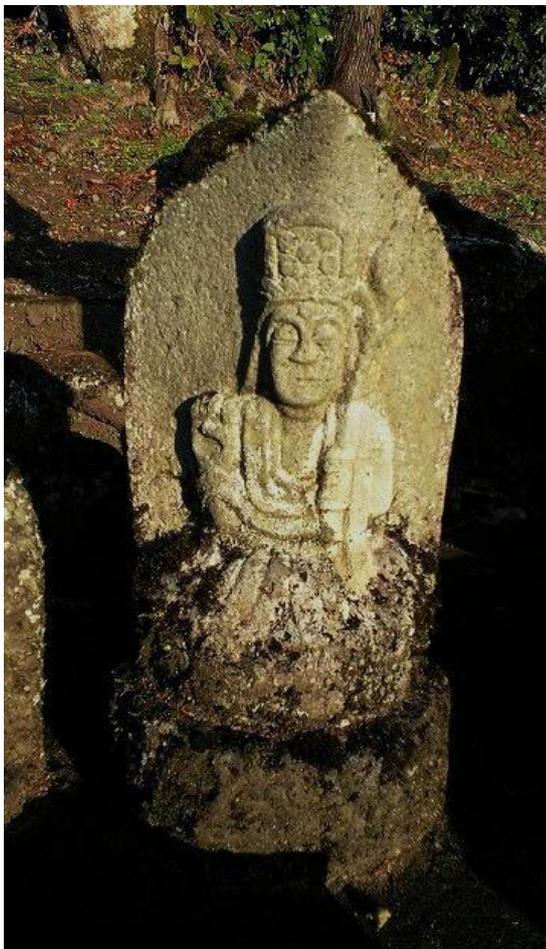
平井 一雄

岩峯寺の一般墓地に道標地藏があるというので会員の佐藤武彦さんの案内で見ることができた。安山岩製の舟形地藏菩薩立像の右前面に「右立山道施主」、左前面に「金沢紙屋加兵エ」と刻銘されていた。

見終わって上の方の墓石群を見ていたら、五仏宝冠を持つ石仏が見えた。五仏宝冠を持つ仏は、大日如来・虚空蔵菩薩・准胝観音のいずれかと知っていたので、右手は下方に向けた触地印をあらわした虚空蔵菩薩だろうと考えていた。家へ帰って写真を、よくみると、右手は、握りこぶしで上に挙げていた。平成二十四年三月に発刊された『岩峯寺石造物調査報告書』では「聖観音坐像」とされていたが、五仏宝冠の聖観音は無いだろうと思つて、『新纂佛像圖鑑』を眺めまわしていたら、よく似た図像が二例あった。

普賢菩薩の説明を読むと「胎蔵界曼荼羅中台八葉院の尊容は白肉色にして五智の宝冠を頂き、左手の蓮上に三股あるを侍し、右手は五指を伸べ掌面上に向う。高尾曼荼羅に其の図を出し秘蔵記に説明せり」と出ていた。

「五智の宝冠」とは五仏宝冠といっしよのことであろう。ただ、にぎりこぶしのように見えるのは石工の理解か、石材の都合によるのではないか。



岩峯寺の普賢菩薩

岩峯寺では文殊菩薩石像が一体ある。釈迦牟尼仏の脇侍は、普賢菩薩・文殊菩薩とされており、禅宗の本尊として、祀られていることが多いが石造物としては、あまり見ることがない。十三仏なら、まれに石仏として文殊菩薩、釈迦牟尼仏とともに見ることができる。



岩峯寺の文殊菩薩



(院殊文) 薩 菩 賢 普



ツサ ボ ソダ フ 薩 菩 賢 普 (102)

『新纂佛像圖鑑』より普賢菩薩の図像

例会報告 福井市(市街地)西部地区の石仏めぐり

酒井 靖春

平成二十四年五月二十七日。とても良い天気恵まれ、福井の景色を眺めながら、軽快な運転の元、バスは江守中町の江守神社に到着しました。そして予てより楽しみにしていた福井の善光寺式阿弥陀三尊像と、いよいよご対面となりました。大きさも予想以上に大きく、三尊像の足元にはご眷属と思わせるような人型の小さな像がほどこしてありました。富山の阿弥陀三尊像には無い造りであり、相違点が判明した点におきまして、とても有意義に感じました。

今までは、三尊像といえは善光寺式と思っておりましたが、阿弥陀三尊像迎像とは区別して見ていくことも重要と思いました。

路傍の八臂弁財天は、富山では拝見したことの無い石仏で、大変感動し、私のカメラシャッターを押す指にも力が入りました。弁財天自身を表現してある石仏には、あまり出会う機会がなかったので、とても嬉しく思いました。

足羽山麓寺院群で、石祠釈迦涅槃の造形の細かさには、言葉も出ない程感動致しました。釈迦に集まる大勢の人々を、大変表情豊かに表現されている点に深い感動を受けました。

途中から、福井県文化調査委員会の山本昭治氏が参加され、随所で説明もして頂き、より詳しい知識を得ることができました。

また、妙観寺の多宝塔には、とても興味が湧きました。富山にも私が最も興味深く力を入れて研究している甚右エ門の多宝塔があるので、造形を比較しながら拝見することができました。

そして安養寺の墓地にて、祥雲文付のお墓を発見致しました。この様式は、富山市内のほぼ中心地域に属する於保多神社に、祥雲文付菅公の記念碑があるのです。私の幼少の頃には、よく訪れていた神社で、地域でも字間の神様として多くの参拝者に愛されている馴染みの深い神社です。福井の影響を色

濃く受けているのではないだろうかと思いました。実は砺波にも似たような石碑が幾つもあります。小矢部の方にも有るらしいので、機会をみて訪ね、比較研究してみたいと興味が湧いてきました。

同じく祥雲門については、馬瀬口の石工・甚右エ門が石仏に彫っている形が多く残っているので、そちらも関係を考察していきたいと思えます。

昼食は、泉通寺の中で休憩させていただきました。ご本堂で、住職から義賢名号の掛け軸のお話をお聞きし、寺の墓地にある三面名号塔を見学させて頂き、その後、義賢行者墓標・百萬遍利劍名号塔・三尊磨崖仏・異型善光寺式阿弥陀三尊崖異仏・苦行釈迦と、多くの石仏を見学させて頂きました。

北村会長、平井先生、滝本先生には大変お世話になりました。

近いうちには是非とも、福井の石仏を訪ねて参りたいと思います。



泉通寺にて記念撮影

北陸石仏の会 第45回例会のご案内

— 旧大門町・小杉町の石仏めぐり —

平成24年10月14日(日)

参加費：5000円(バス・資料代)

集合場所：①大沢野文化会館 7時20分

②JR砺波駅南口 8時10分

③JR高岡駅南口 8時40分(解散はJR小杉駅になります)

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成24年10月6日(土)

案内：滝本やすし(金沢市)

- 高岡市蓮花寺町 蓮華寺／宝篋印塔、西国三十三ヶ所観音、稚児大師
- 射水市二口 路傍／五輪塔を持つ地蔵
- 射水市布目沢 路傍／聖徳太子二歳像
- 射水市市井 路傍／薬師如来
- 射水市水戸田 密蔵寺／馬頭観音、四国霊場巡拝塔(弘法大師)
- 射水市三ヶ水上 正覚寺／如意輪観音、半跏地蔵、未開蓮を持つ地蔵
- 射水市三ヶ水上 共同墓地／徳本名号塔、題目塔
- 射水市三ヶ水源町 竹林寺跡／地蔵、題目塔、義賢名号地蔵
- 射水市三ヶ高寺 十社大神／狛犬、灯籠
- 射水市三ヶ高寺 路傍／青面金剛
- 射水市三ヶ高寺 蓮王寺／廻國供養塔、光明真言供養塔、大岩不動
- 射水市戸破茶屋町 路傍／蓮王寺標柱
- 射水市戸破茶屋町 日澄寺／題目塔
- 射水市戸破新町 心光寺／地蔵、青面金剛
- 射水市戸破新町 金胎寺／地蔵、大乘妙典回国塔
- 射水市戸破鍛冶屋橋 路傍／馬頭観音、地蔵
- 射水市戸破北手崎 長壽寺／観音、六地蔵、未開蓮を持つ地蔵
- 射水市戸破北手崎 路傍／法華塔、地蔵、青面金剛
- 射水市戸破北手崎 路傍／題目塔、名号塔
- 射水市手崎 路傍／道標(左いわせ 右とやま)
- 射水市手崎 不拾院／地蔵、「南無観世音菩薩」

諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。



平成24年度会費未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。